# CORE ～みんなの仕事術～ VOL.02

コア

発行／2023年3月　発行者／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会　〒689-0201 鳥取市伏野1729-5　https://www.tottori-wel.or.jp/


## 社協仲間の仕事ぶりをご紹介!! 琴浦町社協 森下大樹 さん

総務課 地域福祉推進室 主任

### プロフィールを教えてください？

他の市町で就労継続支援B型事業所や地域包括支援センター（以下：包括）に勤務していましたが、ケアマネジャーの資格を活かした仕事をするため、地元の琴浦町社会福祉協議会に就職しデイサービスの仕事に就きました。 その後、社会福祉士資格を有していることで地域担当に異動となりました。現在は支え愛マップづくり事業（以下：マップづくり）、法人後見事業、えんくるり事業、フードサポート事業、共同募金会など地域福祉全般を担当しています。

### 力を入れているお仕事は何ですか？

コロナ禍ではありましたが、集落訪問を令和2年度から**3年間**掛けて町内154集落のうち**120集落へ訪問**しました。

先ずは各集落の区長や福祉委員等からお一人暮らしや障がい者など気になる世帯について聞き取ります。その中で、深掘りする場を設けたいとなった場合に、区長、民生委員、福祉委員、愛の輪協力員など福祉に関わりのあるメンバーで福祉課題やその解決に向けた取組を話し合う場となる**「福祉連絡会」を立ち上げるサポート**をしています。

住民との対話が重要で、普段の暮らしぶりや課題について尋ねることで、**地域ごとの特徴を把握**することに繋がってます。例えば「空き家」に関して、自治会によって考え方も様々だと気付きました。「他人のものだからほっておく」「近隣住民が困るので相続人に連絡を取り区費を納めていただき住民で草刈りをする」といった集落があり、「人ごと」とするのか「**自分ごと**」とするのか考え方に差があります。

集落訪問やマップづくりをキッカケに、「自治会に加入していない気になる方への関わり方をどうするのか」など、集落の住民同士で、気にはなっていても対話する機会が無かったテーマについて話し合うことにも繋がってきています。

また、マップづくりなどの集落へのアプローチ時には包括や役場の防災担当にも関わっていただくよう連絡調整をし、**多機関で集いの場に出向く働きかけ**を行っています。気になる世帯がみつかった場合には、社協は勿論、包括や生活困窮者自立支援機関等の必要な**専門機関と連携**して関わるようにしています。

集落訪問を行い**地域の話合いの場に参加**することが、関わりが必要な世帯の早期発見・早期対応に繋がり、いわゆる**アウトリーチ**（出向く）と呼ばれる活動とリンクしていると考えます。

### 心掛けていることはありますか？

法人の**基本理念の大切**さですね。入職当初は「みんなで支えあい共に生きる福祉のまちづくり」を月例会で復唱しており、無意識にただ読み上げるだけで意識のなかにまでは落ちていませんでした。地域に出向き住民と関わる機会が増えた今、理念の意味・大切さが分かるようになりました。

わざわざ相談窓口に出向いていくほどではない相談や困りごとに気付けたり、平日の昼間に畑仕事をしているため自宅は留守であることなど、**地域の空気感を肌で感じる**事が重要です。

また、住民さんとの対話で心掛けているのは**「自己開示」**することです。相手に身近な体験・失敗談などを伝え**共感を得る**ことで、相手との距離を縮めることに繋がる事が多いと感じています。

理念を具体化するためにも、先ずは地域を知り地域の方と顔の見える関係を築く事が大切です。**地域へのアセスメント**をすることが**社協の本質**なんだろうと考えます。

### わたしに必要な「コレ」

料理が私のライフワークです。我が家では私が夕飯を作る担当ですが、買い物は妻が担当ですので妻が購入してきた食材でメニューを考えます。外食をして気に入るとその料理が作りたくなり外食した晩に同じメニューを再現するなんてこともあります。

自宅にある食材から調理するので、「あるものを掛け合わせる」ことで言えば地域福祉に共通する点もありますね。

ご家庭でも試行錯誤を繰り返す森下さんらしいエピソードでした

# 地域のお宝発見！！
# 「地域住民によるなんでも相談」三朝町賀茂地域

## 笑いのある集いの場づくり

三朝町賀茂地域協議会では、コロナ禍において相談窓口「なんでも相談ダイヤル」を開設されました。地域協議会福祉環境部会部長の谷川武彦さんに、地域協議会の取り組みと今後の展望についてお話を伺いました。

地域協議会は、三朝町内において複数の集落で構成される会であり、「地域住民が主役となり地域の総合力を高める活動をとおして、いきいきとした暮らしが実感できる自主的な地域づくりを促進する」ことを目的に活動されています。

地域協議会役員の多くは男性で構成されてました。谷川さんは、女性の意見を汲む機会が必要であろうということで、ご自身が部長を務められる福祉環境部会内に女性目線のイベントに取り組む「賀茂わたげの会」を設置されました。高齢者の閉じこもり防止を目的にカフェを毎月オープンし、**笑い溢れる井戸端会議**のような活動を行われています。

## コロナ禍で集いの機会が減少

しかし、**コロナ禍**により**集いの場が減少**し、人と人が接する機会が大変少なくなりました。**顔馴染み**の方たちが**ちょっとした相談も出来なくなっている**事を懸念され、谷川さんは**令和3年4月に「なんでも相談ダイヤル」を開設**されました。

相談受付用の携帯電話もご用意され、「**誰に**相談したらよいか分からない」「**どこに**聞いたらよいか分からない」「**少し話を聞いて欲しい**」といった相談を受け付けられています。**LINE相談**と合わせ、些細なことでも相談を受け付けられることをPRされており、**定期的に発行**する「賀茂地域協議会だより」に**何度も掲載**されています。

## 気持ちの敷居は低く

谷川さんは、「**相談前の相談**」にも対応されており、住民の不安や悩みに寄り添うことができるよう、先ずは「相談してもいいのだろうか」という気持ちの敷居を低くしたいと意気込まれています。

実際に、町内で運行開始した町営バスについて「利用方法をどこに聞けばよいか分からない」といった相談が入り、谷川さんが町役場企画課と調整され、相談者が住む集落を対象とした町による住民説明会の開催に結びつけられました。

理想とするビジョンは、「集いの場に集まる方が**誰でも相談を受け止められる活動**につなげる」ことだそうです。

インタビュー中、谷川さんは終始笑顔でお話されました。**温かくユーモアのある話ぶり**が、相談者の気持ちに寄り添い、心地よく**話が出来る雰囲気**を作ってくださるのだと実感しました。

# 社協ワーカー向け「情報BOX」

## 「防災ゲーム」で支え合いの気持ちを育む！！

『暮らしに合わせて備える』『困ったときには助け合う』そのような災害からの教訓を、**子どもから大人まで**、体験を通じて学び・考えることを目指したゲームです。 地域の集いの場で活用してみませんか。

### ① 持ち出し品ゲーム「これ持ってぐ～（Good）！」

参加者一人ひとりが特定のキャラクター（例：外国人や赤ちゃんなど）の役となり、避難時に必要となる物を確認し、そのアイテムカードを揃えていくゲームです。

災害が起こった際、避難時に必要なものは人によって異なることを学び、自分の暮らしに合わせた備えについて考えるきっかけ作りを目的としたゲームです。

### ② 防災すごろく「支え合ってご～（Go）！」

すごろくのコマを進めながら、マス目によって発生するクイズやイベントを通して災害への備えについて学びます。

グループの中で声を掛け合い、支え合いながらゴールを目指すことで災害時の助け合いの大切さについて考えることを目的としたゲームです。

防災ゲーム（2種類）を10セットずつ購入しました
貸出窓口：福祉振興部 ☎0857－59－6344

「CORE（コア）」とは「芯、核心」などの意味を持つ英単語です。
地域で活躍する社協職員や特徴ある地域活動等の内側にフォーカスした内容をお届けします。